第22回救急・災害医療提供体 制等の在り方に関する検討会 令 和 2 年 1 2 月 4 日 2

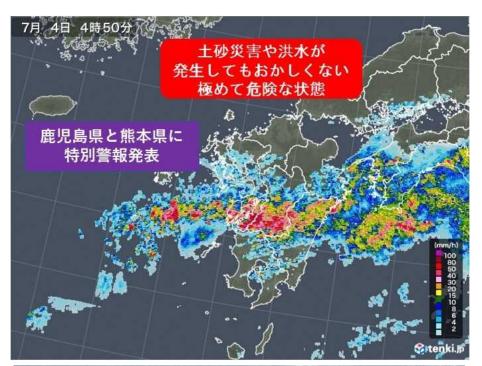
令和2年7月豪雨におけるDMAT活動について

国立病院機構本部DMAT事務局

大雨特別警報発令県	大雨特別警報発表日時
熊本県	7月4日 04:50
鹿児島県	7月4日 04:50
福岡県	7月6日 16:30
佐賀県	7月6日 16:30
長崎県	7月6日 16:30
岐阜県	7月8日 6:30
長野県	7月8日 6:43

7月4日午前5時30分 球磨村(小川合流点)ではん濫発生

国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所





DMATの活動

• 派遣要請

- 熊本県から近畿、中国、四国、九州・沖縄各ブロック管内DMATに対し派遣要請
- 熊本県から関東ブロックを除く全国のDMATロジスティックチーム隊員に対し派遣要請

• 活動期間

- DMAT:2020年7月5日~7月21日
- DMATロジスティックチーム: 2020年7月5日~7月26日

• 活動隊数

- DMAT117チーム(熊本県DMAT22チーム、熊本県外95チーム)、約430名
- DMATロジスティックチーム74名

• 活動場所

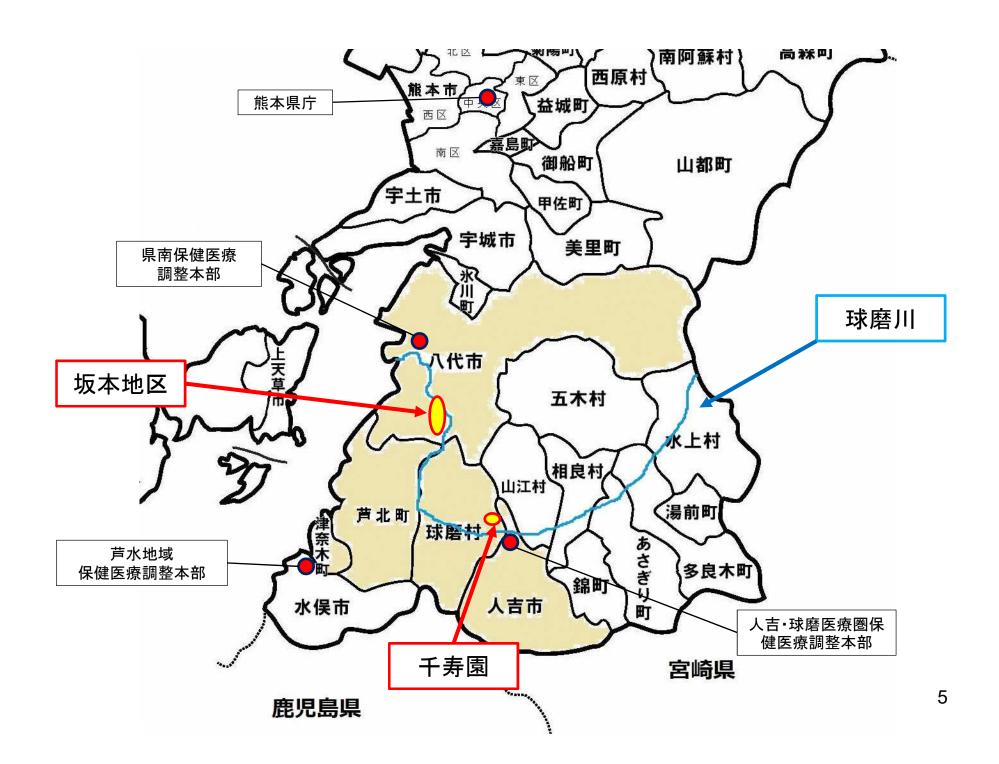
- ― 熊本県保健医療調整本部(熊本県庁)、県南保健医療調整本部(熊本労災病院内)、芦水地域保健医療調整本部(水俣市立総合医療センター → 芦水地域振興局内)、人吉・球磨医療圏保健医療調整本部(人吉保健所内)
- 熊本県内医療機関、介護保険施設、市町村庁舎 等

• DMAT事務局の活動(派遣)実績

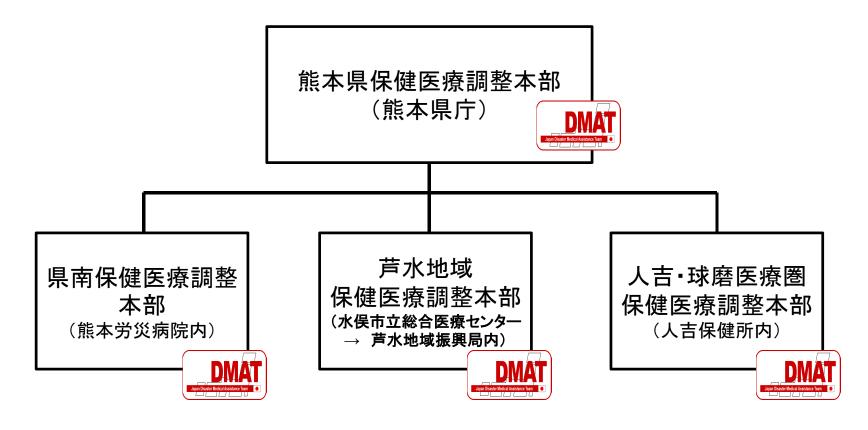
- 熊本県に対して、7人を派遣

DMATの活動

- 各被災地域の被害状況把握
- 医療ニーズのスクリーニング(医療機関・高齢者施設・避難所)
- 水、燃料等の物資支援
- 医療機関・施設への人的支援の調整
- 発災初期の病院からの患者救助・収容病院調整(県調整本部)
 - ・A医院(1階床上浸水)17名 → 熊本労災病院、八代北部地域医療センター
 - ·B医院(1階床上浸水)13名 → 熊本総合病院
 - ·C病院 64名→ 水俣市立総合医療センター他9医療機関へ
 - ·D特別養護老人ホーム85名 → 5名医療機関、熊本市内特別養護老人ホームへ
- 避難所診療支援
- 孤立集落支援:緊急医療搬送、薬剤配布等
- 新型コロナ対策(隊員の検温等体調管理)
- 市町村•保健所支援
- 医療機関(診療所も含む)の復興支援



指揮系統図



これらすべての本部において、 DMATが本部活動を行った

熊本県保健医療調整本部(熊本県庁内)









病院避難













産経フォト https://www.sankei.com/photo/story/news/200706/sty2007060009-n1.html

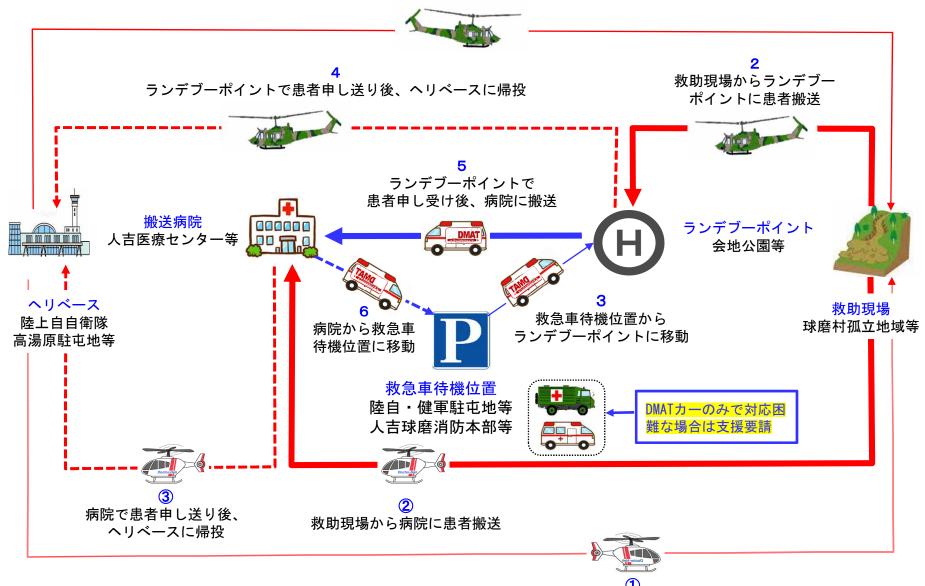
病院支援活動



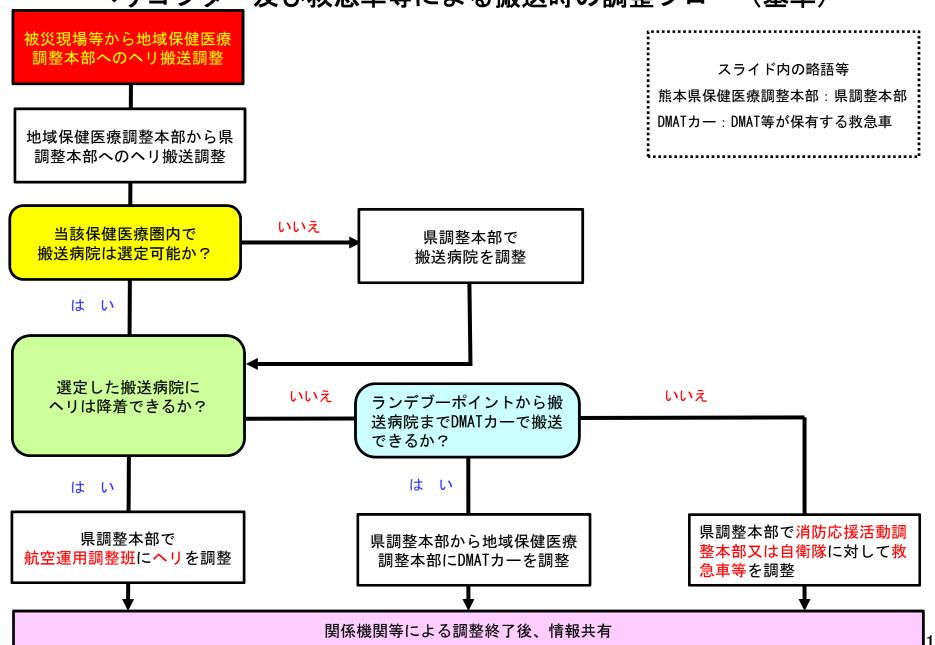


孤立透析患者対応 ヘリコプターと救急車等による患者搬送の流れ(イメージ)

ヘリベースから救助現場に移動



孤立透析患者対応 ヘリコプター及び救急車等による搬送時の調整フロー(基準)



さくらドーム・球磨村総合運動公園



診療所復旧支援









自衛隊と協働し、施設の診療環境整備支援

産経新聞より

診療所支援





村民3800名の医療・薬剤へのアクセスの回復

避難所支援











病院-診療所復興支援

- 閉鎖・病院避難した医療機関の復興支援
 - 熊本県内10医療機関、15診療所(有床・無床)、7高齢者施設、19避難所
 - 復興のための貴重な経験を伝え、様々な相談事にも答えていただけるように、平成28年熊本地震で病院避難し、1年半をかけて復興された「阿蘇立野病院」院長はじめ職員の方々とともに、上記医療機関を訪問している。

令和2年7月豪雨の特徴

- ・ 広域、多数の孤立地域
- 発災後長期に続く豪雨
 - ヘリ救助が困難
 - 救助の遅延
 - 自衛隊と連携した徒歩も含めた救助
- ・ 孤立集落への安定的な医療・薬剤の供給
 - 緊急住民スクリーニングと薬剤供給(←DPの教訓)
 - 診療所復旧支援
- 病院•診療所復興支援
 - 復興支援ニーズの聞き取りと対応
 - 熊本地震の経験の共有
- ・コロナ禍での災害
 - 避難所等での感染対策の徹底
 - 支援、受援の忖度、遠慮、過剰反応(?)